

オピニオン

この4月から小・中学校で使用される教材「私たちの道徳」(文部科学省発行)を入手した。よくできているので、3月3日の参議院予算委員会のテレビ中継の場で紹介したところ、「子や孫と一緒に読みたい」などの声をいただいたので、改めて紙面で紹介したい。教材は「読みもの部分」と「書きこみ部分」があり、書きこみ部分には家族や地域の人に聞いて記す部分などもある。

小学1・2年生用教材は、昔話やフェアブル、二宮金次郎のお話などのほか、早寝早起き朝ごはんなど、良い生活習慣が身につくよう工夫されている。小学3・4年生用は、オリンピック金メダリスト高橋尚子さんや、なでしこジャパンの澤穂希さん、葛飾北斎や良寛の生き方などが記されている。

またおもてなし、一期一会、和食や和服を紹介しながら、日本の道を求める文化に思いをいたすような構成にもなっている。放課後や土曜授業での活用も想定している。茶道、華道、武道、装道など、地元の先生方が学校に出前授業をして、日本文化を伝えてほしいと願っている。そのため予算も確保している。

小学5・6年生用では、日本人として、また、国際的な視点をもって生きた野口英世、新渡戸稲造、福沢諭吉、坂本龍馬などが紹介され、ヘレン・ケラーとアニー・サリバン、マザー・テレサ、戦後千人の子供たちを育てたエリザベス・サンタース・ホームの沢田美喜さんなど、女性ならではの意志と情愛あふれる姿も描かれている。

「女性の活躍」が昨今言われるが、会社で月給をいただき役職につくばかりが必ずしも「活躍」ではないことにも気づくかもしれない。近江商人の売り手良し、買い手良し、世間良しの「三方良し」の考え方などを通し、働く意味について考えさせるコラムもある。

中学生用になると、90人くらい

教育の力「10年先」楽しみに

参院議員 山谷えり子



〈やまたに・えり子〉サンケイリビング新聞編集長、首相担当補佐官(教育再生担当)など歴任。1男2女の母。

の先人が紹介されている。アリストテレス、キルケゴール、パスカル、ハイデッカー、ビクトル・ユゴー、ゲーテ、サンテグジュペリ、孔子、老子、クラーク博士、ケネディ、ガンジーなどなど。それぞれの名言を英語でも学習し、中国人と英語で論語を、インド人とガンジー精神を、米国人とケネディの演説について語り合えたらさぞ面白がると思う。

「科学技術立国」日本としては、iPS細胞の山中伸弥先生やはやぶさプロジェクトなどの紹介も豊富だ。さらにいじめやインターネットとの向き合い方、闘病中の母への思いなど、現代的な課題の取り扱いも胸に迫る。全体として美しい文章で構成していることに感謝している。

「道徳は価値の押しつけ」として道徳の教科化や教材づくりに反対する方もおられるが、手にしていただければ理解いただけるのではないだろうか。小学校1年生から中学3年生までといえれば約1千万人である。さらに周囲の方々の意見を聞きながら書き記す欄の活用で、約5、6千万人の人々が教材を手にし、世代をこえて語り合えば、2020年のオリンピックに向けて日本はさらに「文化立国」として深みを増すことだろう。オリンピックはあらゆる分野で国際化の起爆剤ともなる。同時に日本のアイデンティティーの再確立という求心力としても働く。年配の方々が教材を手にやさしいお顔で「10年先が楽しみね」と言われた。教育の力は大きい。

■ 解答乱麻 ■